

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	伏見 寿洋	学校名	静岡県藤枝市立稲葉小学校
実施学年	5 年	教 科	社会科
单元名	未来を作り出す工業生産		

《学びを深めたいポイント》

- ① 「授業は自分たちで作上げる」(主体的・対話的・共同的な授業)
…児童の主体的な対話で授業を進めていく。
- ② 「社会科として」
…自ら、必要な情報(資料)を読み取る・集める・提示する・共有する。
- ③ 「本時のポイント」
…**驚き・感動・発見のある授業**にする。(働く人々の努力や工夫に感動する。)
“こぶし一つ分”まで近づけて、たくさんの車を船内に並べて入れる“職人技”、船の揺れに耐える積み込み方の工夫、8000 台もの車を積み込める専用船のつくり、キャリアカー運転手の技術…などを、児童自らが発見し、驚き・感動のある授業にしていく。その結果、働く人々の様々な努力や工夫を、教科書資料から読み取ることができるようにしていく。

《SKYMENU 活用のポイント》

SKYMENU Teacher's Community へ投稿した記事「『発表ノート』日常化への道①～⑤」のステップを踏んでいくと、児童は、『発表ノート』を、ノートや鉛筆、消しゴムのように、学習用具の1つとして日常的に使用できるようになりました。どの授業でも、いつでも・使いたい人が・使いたいタイミングで、『紙ノート』や『発表ノート』(シンプルレゼン)を自分で選んで使用しています。

そして、本時の児童は『発表ノート』を、同記事「『発表ノート』日常化への道③」の【1】①～③のように活用しています。

【1】「表現・伝達手段」としての『発表ノート』『シンプルレゼン』

言葉で説明する。図式化する。動作化・劇化(演技)する。イラストを示す。資料(グラフ、表、写真、文章)を提示する……など、様々な表現手段の中で、『発表ノート』が有効な場合、児童は『発表ノート』を使い、『紙ノート』が有効な場合は『紙ノート』を、口頭の説明で済む場合は口頭で、演技して見せたい場合は前に出てきて演技を……と、それぞれ自分の伝えたいことをより効果的に伝えることのできる方法を選びます。

本時の場合は以下の方法で『発表ノート』が有効だと判断した多くの児童が、『発表ノート』を使って発表しました。

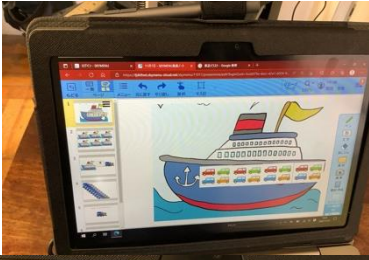
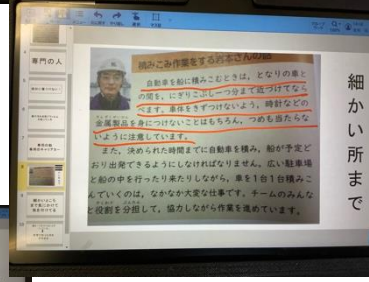
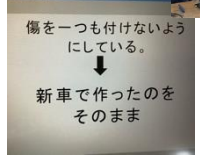
① 自分で見つけた資料(考えの根拠となる資料の写真や証拠など)を写真に撮り、『発表ノート』内に貼り付けて、そこに解説を書き入れて、みんなに提示する。

② イラストや図を『発表ノート』書いて、筋道を立てて、一つ一つ順を追ってスライドをめくって説明する。

③『発表ノート』と『紙ノート』の融合

イラストや図、解説文を書いた『紙ノート』を写真に撮って『発表ノート』に取り込み、みんなに提示して発表する。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	①港の駐車場にどこまでも並んだ何千台もの自動車(写真)を提示。 ②児童が、様々な声(「すごい数!」「こんなに運べるの?」「ぶつかりそう!」「トラックでは運べないよね?」「どうするんだろう?」)を出しながら、学習問題をつくる。 ③ 児童の疑問からできた学習問題提示「<u>こんなにたくさんの自動車を<u>全国に・きれいなまま・短時間で</u>、どのようにして届けるのだろうか?</u>」)	港に並んだ自動車の様子を「発表ノート・プロジェクター」で提示。各児童タブレットにも配布。 	教科書を開く前に、いきなり「港に並んだ自動車の写真」を『発表ノート』で提示・配布することによって、児童の心を動かす。児童は驚き、様々な疑問を口にします。
展開	児童一人一人が、教科書を調べる。そして、児童一人一人がそれぞれの方法で、発見したことを表現していく。 〈活動の様子〉 ・一人で『紙ノート』に書いていく子 ・一人で『発表ノート』に書いたり考えをまとめたりしていく子 ・考えができた後、一つのタブレット『発表ノート』を囲んで、仲間と入力していく子 ・友だちと対話して考えを深めていく子 ・『発表ノート』でみんなに説明する子 〈発言・発見内容など〉 ・陸上の道だと遠いし遅いから、船に何千台も積んで運ぶ。 ・一度に 8000 台も運ぶから、時間の節約になっている。 ・車が傷つかないように、一台一台にフィルムを貼っている。 ・1時間に一台!→とても慎重。 ・運転の専門のプロがやっている。こぶし1こ分しか隙間がない。すごい技術! ・チームで役割分担している。 ・揺れても大丈夫なように、しっかり固定している。 ・船の後には、キャリアカー。運転のプロ!	・児童は『発表ノート』に、様々な資料を貼り付けたり、自分で図やイラストを描きこんだり、キーワードを入力したりして、みんなに提示して発表していた。『発表ノート』が大活躍であった。   	・教科書に散りばめられた複数の資料(写真やイラスト図、働く人の証言文など)を『発表ノート』に取り込んで、関連付けて、または、作成したスライドを順序立てて一つ一つめぐりながら発表していた。 『紙ノート』ではできない『発表ノート』の大きな効果が見られた。   

ま と め	友だちの発見・発表を聞いたり、話し合ったりしてわかったことをノートにまとめる。	・ここでは、8割の児童が『紙ノート』を使用した。鉛筆で書くよりタイピングなどが得意な児童は、『発表ノート』にまとめている。	・自分に合った方法を自分で選ぶようにしている。『発表ノート』を使っている児童は、『紙ノート』ページに一言「発表ノートへ」と書いて、『発表ノート』内「提出箱」に提出する。
-------------	---	---	--

《実践を振り返って》

社会科の授業では、以下の2点について、『発表ノート』が大変有効であることがわかった。

- ① 調べたことを、いかにわかりやすくみんなに伝えるか。
- ② 複数を資料を関連づけて、思考する。

①については、『発表ノート』を使うことによって、表現の幅が大きく広がるからである。

②については、教科書や資料集、図書資料など、あちこちに散らばった情報を『発表ノート』内に集めて、しかも、わかりやすく配置・構成しながら貼り付ける（時には複数のスライドに分ける）ことができるからである。

色々な教科で、この『発表ノート』良さを生かした活用をしていきたい。